



式辞抜粋

名古屋電気学園は五年後に創立百周年、大学もあと二年で創立五十周年のそれぞれ記念すべき節目の年を迎えます。

しいものがあります。それらを踏まえながら、現在、大学では学

記念式典では、後藤淳理事長が学園の歴史を振り返り「技術者育成に努め、地元だけでなく全国

後藤淳理事長は十一月六日、名古屋千種区若水の名電高校・喬徳館で行われた「学校法人名古屋電気学園創立九十五周年記念式典」の式辞の中で、五年後の学園創立百周年、二年後の大学創立五十周年など見据え、二〇〇九年に名古屋市千種区内に「自由ヶ丘キャンパス（仮称）」を建設するなど、学園を取り巻く厳しい情勢の中で各設置校の整備、拡充を積極的に展開することを明らかにしました。

創立百周年へ向け学園設置校の整備、拡充図る
大学は名古屋・自由ヶ丘に新キャンパス
中学は現在地に新校舎をそれぞれ建設へ



愛知工業大学情報電子専門学校
愛知工業大学名電高校
愛知工業大学附属中学校

目次:

Table with 2 columns: Item Name and Page Number. Items include: 名誉学園長葬儀 (2), 新キャンパス等 (3), 各設置校学校祭 (4), 学校見学会等 (5), 教授らの業績等 (6), スポーツ等活躍 (7), 活発な国際交流 (8).

発行所
名古屋電気学園
〒470-0392
豊田市八草町八千草1247
TEL (0565) 48-8177

に人材を送り出してきました。この歴史が揺るぐことなく続き、発展できるようにこれからも学園教

職員のご尽力をたまわりたい」と式辞を述べました。続いて永年勤続者の表彰を行い、勤続四十五

部、学科の再編、八草キャンパスの整備、拡充など、高校でも科学技術科を新設し高大一貫を、中学も中高一貫教育プログラムを、専門学校は豊田市の要請を受けて人材育成と様々な取り組みをしています。

中心に「ものづくり」の原点に戻り、さまざまな取り組みを行っています。学園は創立以来、社会のニーズにこたえた人材を送り出してきました。少子高齢化、大学全入化時代にあっても、大学の精神を忘れずに、これからも、常に時代に先駆けた教育を実践していくものであります。

(写真は、式典であいさつする後藤淳理事長)



創立記念式典で後藤淳理事長から表彰される永年勤続者の皆さん＝名電・喬徳館で

年の中学教頭・後藤俊次さんほか勤続三十五年十一人、二十五年一人、十五年十五人の計二十八人一人ひとりに、理事長から記念品などが贈られました。

この後、受賞者を代表して後藤俊次さんが「晴れの日を迎えられたのも学園の皆様の支えがあったこそと思ひ、これから一生懸命頑張ります」と謝辞を述べました。(新キャンパス、永年勤続表彰者名等は3ページに掲載)

学園物故者法要

覚王山日泰寺で

創立記念式典に続き平成十九年度学園物故者法



学園関係者らが出席して営まれた平成19年度学園物故者法要＝覚王山日泰寺本堂で

要が十一月六日午後二時から、名古屋千種区法王町の覚王山日泰寺の本堂でしめやかに営まれた。法要には、後藤淳理事長、後藤泰之愛工大学長ら学園、各設置校教職員、大学生、中高生、遺族、同窓会関係者ら約三百余人が出席。読経が流れる中、ことし亡くなった後藤淳理事長夫人の後藤和子名誉学園長を含む七人をはじめ学園関係の物故者のため出席者らが焼香台の前に立ち、次々に焼香し手を合わせていました。また、理事長らは日泰寺近くにある学園墓地を訪れ学園の教職員、卒業生、学生・生徒らの慰霊塔前で手を合わせ、めい福を祈っていました。

### 後藤和子名誉学園長逝去

後藤淳名古屋電気学園理事長夫人で名誉学園長の後藤和子さんが八月七日、七十四歳で亡くなられました。葬儀は名古屋電気学園と後藤家の合同葬として、八月九日にお通夜、十日に葬儀・告別式が、いずれも名古屋千種区法王町の覚王山日泰寺普門閣で、しめやかに営まれました。



お通夜には  
豊田章一郎・  
トヨタ自動車

名誉会長、松原武久・名古屋市長ら愛知県内外の政財界、教育、学園関係者ら多数が参列して営まれました。

喪主の後藤淳理事長らご遺族、参列者が読経の流れの中、花で飾られた祭壇の和子さんの遺影の前に進み、静かに手を合わせ焼香しました。式場外にも一般弔問客が長い列をつくり、臨時に式場前に設けられた焼香台に

次々に立ち和子さんのご冥福を祈っていました。翌日の葬儀は、ご遺族のほか神田真秋・愛知県知事ら多数の来賓、弔問客らが参列して営まれ、



葬儀式場で参列者にあいさつする鈴木葬儀委員長(左)と後藤淳理事長

葬儀委員長を務められた鈴木札治前愛知県知事が式文、和子さんの友人代表として長谷川幸子さんがお別れの言葉をそれぞれ述べました。その後、喪主の後藤淳理事長と鈴木葬儀委員長が、故人の思い出などに触れながら参列者にあいさつしました。

引き続き行われました告別式には猛暑の中、お通夜と同じように多数の弔問客が参列し、和子さんに最後のお別れをしていました。

### 人事異動

- 【退 職】 6月10日  
(大学) 入試本部入試センター参事 藤 墳 秀 則
- 【新規委嘱】 7月1日  
(大学) 大学院工学研究科ポストドクトラル 研究員 汪 昕
- 大学院工学研究科ポストドクトラル 研究員 黄 宏 宇
- 【同】 8月1日  
(大学) 大学院工学研究科ポストドクトラル

- 研究員 ラマジョデ ジャヤラマン
- 【同】 9月1日  
(大学) 大学院工学研究科ポストドクトラル 研究員 阿部 亮 吾
- 【委嘱終了】 7月31日  
(事務局) システム管理部システム管理課嘱託 職員 小荒井 健
- 【同】 8月31日  
(大学) 学生支援本部インターンシップ支援 センター嘱託職員 若山 茂
- 【同】 9月30日  
(事務局)

- 財務部参事 岩澤 周治
- 大学院工学研究科ポストドクトラル 研究員 廣内 大助
- 工学部機械学科実習補助員 飯島 匡貴
- 【兼 務】 4月1日  
(大学) 研究支援本部エコ電力研究センター 教授 依田 正之
- 工学部電気学科教授 依田 正之
- 研究支援本部エコ電力研究センター 教授 工学部電気学科教授・学生支援本部キャリアアセンター長・インター

- インシップ支援センター長 村瀬 洋
- 研究支援本部エコ電力研究センター 教授 植田 明照
- 研究支援本部エコ電力研究センター 准教授 鳥井 昭宏
- 工学部電気学科准教授 雪田 和人
- 研究支援本部エコ電力研究センター 教授 林 二一
- 工学部機械学科教授 大島 貴充
- 研究支援本部エコ電力研究センター 准教授 水野 勝教
- 経営情報科学部情報科学科准教授

### 新潟中越沖地震へ義援金

名電学園、各設置校教職員の名電財

七月十六日に新潟県上中越沖で起きた「新潟県中越沖地震」の被災者の助けになればと、学園や各設置校の教職員に募金を呼びかけました。

七月末までに合わせて三十万円の義援金が集まり、林憲二法人部長と岩井貞二総務課長が八月三十一日、社会福祉法人中日新聞社社会事業団に届けました。記事は、九月一日付中日新聞愛知県内版に掲載されました。

### 緊急地震速報活用の避難訓練

大地震に備えた避難訓練が十月三十一日、大学をメインに学園各設置校も参加して、実施されました。訓練は昨年にならぬ二回目。今回は名大など他大学や企業関係者ら多数が視察に訪れました。

訓練は、午前十一時半過ぎ、紀伊半島沖でマグニチュード8.3の東海・東南海連動型地震が発生、八草キャンパス付近での予測震度は5弱—との想定で、学生や教職員ら三百六十六人が参加。サイレンと放送で訓練を開始し、各教室内では学生らが教員の指導で机の下に身をひそめた後、サッカー場へ避難。今回初の試みとして、一年生を対象に学生証のバーコードを読みとり、安否確認をする方法なども行われました。



学生証のバーコードを使っての安否確認訓練

# 大学の新しいキャンパス、名古屋市内に建設

## 二〇〇九年中に完成予定

大学は二〇〇九年、都心のキャンパスとして自然、教育環境に恵まれた名古屋市千種区自由ヶ丘に「自由ヶ丘キャンパス（仮称）」を建設します。キャンパスには経営学科（来年四月名称変更予定）の二専攻が入る予定です。市営地下鉄駅前エリアにあり、「地域のシンボル」として「地域に開かれた緑のキャンパス」づくりを目指します。



自由ヶ丘キャンパス完成イメージ

計画では、広さ二千三百七十七平方メートルのキャンパス内に、メインとなる地上四階、地下一階（延べ床面積約四千五百平方メートル）建ての校舎を設け、内部には講義室や研究室、ゼミ室などのほか、地域住民も利用できる交流ラウンジを中心に図書室などの施設からなる「一般開放ゾーン」の設置を予定。校舎の周りは並木道を造り、外の緑とつながった“地



新キャンパス建設地(手前緑地部分がキャンパスです)

域のアメニティ空間“とすることになっています。新キャンパスは、市営地下鉄名城線・自由ヶ丘駅に近いなど、名古屋の中心地やJR、私鉄の各駅へのアクセスも良く、通学に便利なまさに“都心”のキャンパスといえます。大学は一九五九年に開学して以来、常に社会のニーズに対応した人材の育成を目指し、そのための学部、学科の拡充、再編に努めており、今回も二年後に近づいた創立五

## 附属中の新校舎建設

来年末に完成予定

十周年を念頭に学部、学科の再編、キャンパス整備等を進めているところです。都心のキャンパスとしては、既に本山キャンパスを二年前に設け、大学院経営情報科学研究科のサテライトキャンパスなどとして活用しています。



来年末に完成予定の附属中新校舎完成予想図

新しい校舎は地上五階・地下一階建てで、延べ床面積約六千四百五十五平方メートルです。一階に事務関係、三階に職員室、残る階に教

附属中は、老朽化などで取り壊した旧校舎跡に、二〇〇九年早々のオープンを目指し新校舎を建設しています。

## 学園永年勤続表彰者

室が、設けられる予定です。建物は来年いつばいかけて建てることにしています。

【勤続45年】1人  
(中学)

教頭・後藤俊次

【勤続35年】11人  
(大学)

工学部応用化学科教授・井上眞一▽工学部応用化学科教授・尾之内千夫▽事務局長・宍戸哲▽学生支援本部事務長・松沢勝義▽研究支援本部係長・阿部節子▽学生支援本部係長・重田百合子  
(専門学校)

事務部課長・池山久美子  
(高校)

教頭・杉浦由直▽教諭・石川聡▽教諭・尾島仁▽教諭・樋口悦也  
【勤続25年】1人  
(大学)

経営情報科学部情報科学科教授・秦野和郎  
【勤続15年】15人  
(大学)

工学部電気学科教授・澤田克敏▽工学部電気学科教授・古橋秀夫▽経営情報科学部情報科学科教授・

小池慎一▽経営情報科学部情報科学科准教授・鳥居一平▽学生支援本部キヤリアセンタ―次長・石川貴之▽学務部参事・西飯徳康▽学生支援本部教務センター教務課係長・高井一彦  
(専門学校)

教授・掛布英辰▽教授・島悦郎▽教授・山田一敏▽助教授・河合忍  
(高校)

教諭・板倉進▽教諭・大橋浩二▽教諭・武田真知子▽教諭・前田佳子



後藤淳理事長と記念写真に収まる永年勤続表彰者ら  
名電高・高徳館で

# 学祭

## 大学

学生、生徒らが知恵やアイデアを競い合う学祭が愛工大、名電高、附属中で開かれ、どの会場も参加者らの熱気や歓声に包まれ、盛況でした。

「愛工一揆」をテーマにした第十七回愛工大祭は十月十三、十四日を中心に八草キャンパスで開かれました。お笑い芸人ライブやサークル、同好会などの出店する模擬店、フリーマーケット等が行われたセントラルパークは、まずまずのお天気にも恵まれ学生や大勢の来場者でにぎわいました。愛和会館で開かれた大学祭の目玉行事、「工科



大勢の観客に笑いを振りまいた「お笑い芸人ライブ」の舞台

ちびっ子たちの人気を集めた鉄道研究会のミニ電車の試乗会



「工科展」で学生の手ほどきで、実験に挑戦する親子づれ

PUFFYの公演前に会場入り口で長い列をつくる観客ら



展」には学生のアイデアを実現させる支援制度、チャレンジプロジェクトに参加した人力飛行機同好会など五団体のほか、各研究室、同好会など八団体が出展し、取り組んでいる研究の成果を競い合いました。審査の結果、電力システム研究室の「ソーラーカーの製作及びソーラーカーレース鈴鹿2008への挑戦」が、優勝しました。二位は「ヒューマ



優勝を喜ぶ電カシステム研究室の皆さんと「ソーラーカー」

ノイド型ロボットプロジェクト“行け！鉄人”（鉄人プロジェクト）、三位は「自律走行二輪車の製作・不安定を安定に！！」（渡辺研究室）でした。

研究成果は展示され、親子連れらが、展示品を見たり、実験に参加するなど楽しんでいました。また、講堂兼体育館の鉦徳館では十四日、呼び物の「PUFFY（パフィー）」のコンサートがあり、行列ができるほどの人気。観客らは、二人に総立ちで拍手と声援を送り、その歌声に酔いしていました。また、セントラルパークの特設舞台ではお笑い芸人のライブや、ゲームなどが演じられ、笑いが絶えませんでした。子どもらには子馬など動物と触れあえるAIT

## 高校

プラザ前のミニ動物園や鉄道研究会のミニ電車試乗会が人気を集めていました。

「VIVAM EIDEN」をテーマに九月二十一日、講堂兼体育館・喬徳館や教室、一階中庭の光の庭を会場に開かれ、生徒らが考案したイベントや出し物が披露されました。



舞台と観客の生徒が、一体になり盛り上がった「のど自慢大会」

喬徳館では和太鼓演奏やダンス、北校舎多目的ホールでは「のど自慢大会」、「男装女装コンテスト」などが行われ、生徒らの熱演に対し大きな声援や拍手がおくられていました。

また、教室では各クラスごとに考えたアイデアたつぷりの「プラネタリウム」、「迷路」などが

## 中学

作られ、父母らも一緒になり楽しんでいました。光の庭では、生徒らが腕を振るった本格的な「みたらし団子」から「焼きうどん」、「かき氷」などのいろいろな模擬店が軒を並べ、お昼時には売り切れのお店もあるぐらいの人気ぶりでした。

新校舎建設工事のため、今年の名古屋市千種区の愛

知厚生年金会館を会場に九月二十五日、開かれました。中高一貫の生徒らが顔をそろえたホールでは、中学生による合唱コンクールが行われ、一〜三年生までの全クラスが、舞台に立ち練習の成果を披露しました。写真①。はじめ”などをテーマにした弁論発表や、英語発表に続き、高校生発表があり、一〜三年生がクラスごとに考えた「ヒゲダンス？」や寸劇などを演じました。





愛工大オープンキャンパス

高校生らに大学選びの参考にしてもらおうと今年もオープンキャンパスが夏と秋の二回に分け、八草キャンパス内で開かれ、大勢の高校生や保護者が訪れ、盛況でした。

夏

今年は一日程や  
し七月二十八、二  
十九日の両日、行  
われました。

主会場のA I Tプラザ  
では、平成二十年度入試  
日程や要項、来年4月開  
設予定の新専攻など含む  
学部・学科の概要説明会  
のほか、高校生を対象に  
した入試相談、学科ごと  
の個別相談ブースも設け  
られ、相談や問い合わせ  
にきめ細かく、対応して  
いました。

各講義棟では、各専攻  
工夫のVセラミックスを  
作ってみようVふれてみ  
よう！デジタル信号の  
世界Vコンピュータに数  
学をさせようーの実験な  
どに参加し、大学の雰  
囲気を味わっていました。  
また、新しい乗り物・  
セグウェイの体験  
試乗II写  
真IIも



秋

人気を集めていました。  
大学祭期間中の  
十月十四日に10号  
館を主会場に各講  
義棟で開かれました。夏  
と違って意中の学科・専  
攻などを決めている高校  
生も多く、大学や入試  
説明より入学後の授業内  
容やキャンパスライフの  
関心が高いようでした。  
グループや保護者らと  
一緒に、講義棟で開かれ  
ていた各専攻デモンスト  
レーションの  
会場の  
回り、  
研究成  
果を見  
たりII  
写真II  
、実  
験に参  
加。ま  
た、大  
学祭の  
会場に  
も立ち  
寄り、  
模擬店  
などを  
楽しん  
でいま  
した。



人気を集めていました。  
大学祭期間中の  
十月十四日に10号  
館を主会場に各講  
義棟で開かれました。夏  
と違って意中の学科・専  
攻などを決めている高校  
生も多く、大学や入試  
説明より入学後の授業内  
容やキャンパスライフの  
関心が高いようでした。  
グループや保護者らと  
一緒に、講義棟で開かれ  
ていた各専攻デモンスト  
レーションの  
会場の  
回り、  
研究成  
果を見  
たりII  
写真II  
、実  
験に参  
加。ま  
た、大  
学祭の  
会場に  
も立ち  
寄り、  
模擬店  
などを  
楽しん  
でいま  
した。

私立学校展



名電高、附属中でも来年度の入試に向  
けて児童、生徒や保護者に対し、入試概  
要はもちろん学校の内容や教育方針、課  
外活動、施設などを知ってもらおうと、  
学校展や体験入学、学校見学会などを積  
極的に展開しています。

学校展、体験入学、学校見学会

「私立学校展」が  
十月二十、二十一日  
の両日、名古屋市中  
和区鶴舞の名古屋市  
公会堂四階ホールで  
開かれ、大勢の小学  
生や中学生、保護者らが  
詰めかけました。

学校展には愛知の私立  
小学校、中学校、高校合  
わせて六十校が出展。附  
属中、名電高は合同ブー  
スを設け、中学、高校の  
教職員、入試担当者らが  
学校や入試資料などを手  
に説明に当たりました。

志望校選択も山場にき  
ていることから、時間を  
かけて担当者から話を聞  
く親子連れも多く見られ  
ました。初日の二十日は  
相談に訪れる保護者らも  
多く、順番待ちの列がで  
きるほどで、担当者も応  
対に汗だくでした。  
ブースの壁には、来年  
末にできる新しい中学校

舎の完成図も展示し、保  
護者らにアピールしまし  
た。  
【写真は、順番待ちができる  
ほどだった附属中、名電高  
の合同ブース】

体験入学、見学会

高校を“まるごと”体験すること  
で、学校選びの参  
考にってもらおう  
と、中学生らに対  
象にした体験入学  
が八月二十七日、  
名古屋市千種区若  
水の高校で開かれ、昨年  
を上回る八百三十人の中  
学生が詰めかけました。

全施設を開放、「学習  
体験」、「国際交流」、  
「部活動体験」の三つの  
体験ゾーンを設け、各ゾ  
ーンを回ると、高校の教  
育内容や部活動が一目で  
分かるというものです。  
中学生は、LANケ

ブル作りなどの実習体験  
や、バレーボールなどの  
部活体験をしたり、吹奏  
楽部、チアリーディング  
部の演奏や演技を見るな  
どして、高校生活の一端  
に触れていました。



高校生の指導で、CAD実習  
を楽しむ中学生ら

十月二十七日は学校見  
学会を開催、昨年を上回  
る約三百五十人の中学生  
らが高校生活を体験しま  
した。普通科特別進学コ  
ースの授業を見たり、情  
報科学科など専門学科で  
用意した様々な実習や実  
習に参加し、熱心に取り  
組んでいました。科学技  
術科のCAD実習では、  
同科生徒に教えられ、パ  
ソコン画面で三次元の図  
形づくりに挑戦していま  
した。  
サテライト教室では学  
校説明会も行われ、保護  
者らに学校の沿革や入試  
概要など説明しました。

# 活躍、光る



米国コンクリート学会の名誉会員に

長瀧重義・愛工大都市環境学科特任教授が、アメリカコンクリート学会（ACI）名誉会員に選ばれました。会員数が世界で二万人を超す権威ある学会で、その中で名誉会員に選ばれたのは過去百九十五人だけで、日本人は長瀧特任教授も含めて五人だけです。

今回、業績や四十四年間に及ぶ会員としての功績が認められ、学会審査などを経て、名誉会員に推挙されました。四月に米国アトランタ市のホテルで開かれた大会でトーマス・D・ヴェルチ会長から名誉会員証を授与されました。

長瀧特任教授は「私への評価が認められ、さらに名誉会員だった東大の恩師、國分正胤先生（故人）と肩を並べられるところまできたとの思いもあり、うれしかった」と、話しています。コンクリート工



骨材資源工学会の会長に就任

学の専門家で、日本版ACIの日本コンクリート工学会（JCI）の会長も務められました。

森野奎二・愛工大都市環境学科教授が六月に開かれた平成十九年度骨材資源工学会総会で会長に選ばれました。任期は二年。同工学会は研究者や砕石、砂利業界関係者ら会員総数約五百人。骨材の研究や会報・骨材資源の発行、骨材関連の資格試験などを行っています。

森野教授はコンクリート工学が専門で、コンクリートに不可欠な砂利、砂などの骨材となる地質学も専門分野です。会長に選出されたことに対し「砂や砂利をコンクリート素材として使う使用者に年々、資源の枯減している状況を専門家の立場から理解してもらいたい」と抱負を話していました。

## 国際会議で講演、論文発表



最優秀ポスター発表賞の賞状を手に櫻木君、戸伏教授、江尻君=左から

戸伏壽昭・愛工大機械学科教授は六月、ポランダ・カジメシ市で開かれた「第十回ヨーロッパ材料の力学会議」で、基調講演を行い研究成果を「形状記憶合金と形状記憶ポリマーの熱・力学特性」と題しスピーチしました。

また、戸伏教授の材料力学研究室に所属する大学院工学研究科博士前期課程機械工学専攻二年の江尻佳弘君、同櫻木稔巳君もそれぞれ論文を発表しました。論文は櫻木君が「種々の負荷条件を受けるTiNi形状記憶合金の熱・力学的挙動」。また、江尻君は「形状記憶ポリマーの形状回復性と二次賦形特性」をテーマに、ポスター発表にも

臨み、約二十件の発表の中で、最優秀ポスター発表賞に輝きました。戸伏教授は、本学と学術交流しているポランド科学アカデミー・基盤技術研究所のノヴァツキ所長の招きで講演。江尻、櫻木両君は「貴重な体験をさせたい」という教授やノヴァツキ所長の働きかけでEUの若手研究者支援プログラムと財団・中電基礎技術研究所の助成を受けて会議に参加しました。

## 若手ポスター賞を受賞

### 環境分析化学研究室



愛工大応用化学科・酒井忠雄教授、手嶋紀雄准教授と環境・分析化学研究室に所属する大学院工学研究科博士前期課程材料化学専攻二年の上田実君と同年の久野真紗美さんが九月十九日、二十一日まで徳島大学で開

かれた日本分析化学会第五十六年会で若手ポスター賞を受賞しました。受賞した研究は、「新規ストロプトフロー法によるバナジウムの自動分析」。内容は、最近、血糖値との関連で注目されるバナジウムの微量分析法で、開発したタッチパネル式コントローラーを使い、従来のような試薬溶液を垂れ流す分析法でなく、しかも少試料、少試薬で分析時間も短縮した新システムです。特徴は試料と試薬の混合溶液を一時、ループに貯めて分析する方法で、「ストロプト・イン・ループフロー分析」法と命名した新規のストロプトフロー法です。ポスター発表は約一時間、今回の発表は久野さんが担当しました。若手ポスター部門では本学を含め合わせて八十件の発表があり、うちポスターに選ばれたのはわずか六件でした。

【写真は、若手ポスター賞を受賞した研究室の四人（左から酒井教授、上田君、久野さん、手嶋准教授）】

# 内外での



長谷部投手、楽天イーグルス入団へ

笑顔の長谷部投手

愛工大硬式野球部の長谷部康平投手（マーケティング情報学科四年）は十二月五日、名古屋市内のホテルで、プロ野球東北楽天ゴールデンイーグルスと入団交渉を行い、仮契約を結びました。長谷部投手は十一月十九日の大学生・社会人を対象としたドラフト会議で、楽天から一巡目指名を受けました。仮契約後

## 名電高校

### 夏の甲子園に3年連続9回目の出場

名電高野球部は第八十九回全国高校野球大会の県大会で中京大中京を下し、三年連続九回目の優勝を果たしましたが、甲子園では初戦突破とならず涙をのみました。



第八十九回全国高校野球選手権大会愛知県大会の決勝戦は七月三

に、球団の吹石徳一編成本部チーフスカウトと記者会見に臨んだ長谷部投手は、チーフスカウトの「（大学生選手では）彼はナンバーワンと評価し指名しました」との言葉に、「やるからには、新人王を取りたい。全力投球できるよう、コンディショニングより頑張りた」と、抱負を語りました。

ただ一人、アマチュアから北京五輪アジヤ予選野球日本代表選手に



仮契約の後、記者会見する長谷部投手

選ばれ、十二月一日から三日まで台湾で行われた決勝リーグに出場した感想を記者から聞かれると「プロの中でもトップレベルの選手とベンチに入れば、緊張ある試合を経験し、成長できたと思います」と、目を輝かせていました。

長谷部投手は、台湾で十一月六日から行われた「IBAFワールドカップ」の日本代表にも選ばれ、出場しました。

また、今年のアマチュアスポーツに貢献した個人、団体に贈られる中部運動記者クラブ（新聞、テレビ計36社で構成）の「中部スポーツ賞・奨励賞」にも選ばれました。

八月一日には高校で壮行会があり、生徒らを前に石黒雄一郎主将らが決意を述べ、チアリーダー部や応援団がエールを送りました。

甲子園では大会四日目の八月十一日、一回戦第一試合で創価（西東京）と対戦し、3-1の接戦で敗れました。

## 出雲大会で力走

### 愛工大陸上競技部



大学三大駅伝のうち十月八日に島根県出雲市で開かれた第十九回出雲全日本大学選抜駅伝競走に四大会ぶりに出場、過去最高の十六位を上回る十五位と頑張りました。出雲大会は六区間四十四キロメートルで

争われ本学ほか二十チームが出場

は後半で追い上げ、十五位でゴールしました。十二月二日に愛知県半田市などで行われた東海学生駅伝対校選手権大会で優勝し、来年の出雲大会の出場権を得ました。また、十一月四日には名古屋市中区・熱田神宮一三重県伊勢市・伊勢神宮までの八区間百六・八キロメートルで行われた秩父宮賜杯第三十九回全日本大学駅伝対校選手権大会にも四大会ぶりに出場。結果は、十九位にとどまりました。

## 初挑戦で飛行成功

### 人力飛行機同好会



大学の人力飛行機同好会が七月二十九日、滋賀県彦根市の琵琶湖で開かれた「第三十一回鳥人間コンテスト選手権大会」で「AST-001号」で初参加し、五十三メートルの飛行に成功しました。真。同好会は四年前、「自分たちの飛行機でコンテストに出たい」との思いで、機械学科の酒井春雄・特任教授を顧問に結成。四十八人の部員が取り組み、主翼の幅二十八メートル、機体重量三十五キログラムの超軽量大型機体を作りあげました。同部門には常連の日大や東工大など強豪大学を含む十五チームが参加して飛行距離を競い合いました。唯一の初参加チームでしたが、応援を背に、十位に入りました。

さらなる学術交流の促進

米国・ケンタッキー大



後藤学長(手前)と歓談するケンタッキー大のサバスワミー副学長

愛工大と学術交流している米国・ケンタッキー大学(レキシントン)のカンブル・サバスワミー副学長が十月四日、八草キャンパスを訪れ、後藤泰之学長と歓談。今後、学術交流のいっそうの促進拡大を図ることにしました。副学長は、日本との経済、文化交流促進を目的とするケンタッキー州訪日団のメンバーとして来日。官公庁や企業、大学など回る途中、本学を表敬訪問しました。本部棟で学長、稲垣慎二、小嶋憲三両副学長ら

国際交流の絆 さらに深める

大学の学生と 大学祭楽しむ

中国・東南大学生団

大学幹部と歓談。副学長から今年七月に本学で開催した「国際からくりワークショップ」へのケンタッキー大生の参加を踏まえ「次は米国で」と、両大の交流をさらに深めようとして、申し入れがありました。副学長は「国際からくりワークショップ」を推進した国際交流委員長の森豪基礎教育センター教授の案内で、会場となった「みらい工房」も回りました。各国の学生らが製作した「からくり人形」を見学しました。本学の学生と大学祭楽しむ



本学の学生に教えられアーチェリーに挑戦する東南大の学生

に迎えられた後、会議室で森豪国際交流委員長らと交え、懇談しました。小嶋副学長が「心から皆さんを歓迎します。大学祭を見て、学生と交流を深めてください」とあいさつ。それに対し孫団長が「両大の友好は二十七年になります。今後も末永く、友好を続けていきたい」と述べた後、団員一人ひとりが自己紹介しました。引き続き、今年九月に本学から東南大を訪問した学生らが東南大生とグループになり、キャンパスで開催中の大学祭を見学。サークルや同好会出店の飲食やゲームなどの模擬店をのぞき、本学の学生に教えられ風船割りのアーチェリーに挑戦するなど祭りを満喫していました。一行は、名古屋、京都

国際からくりワークショップ

などを観光見学して十月十八日に帰国しました。一方、今年で十四回となる愛工大の学生訪日団は九月二日～八日の日程で南京市の東南大や上海市などを訪ねました。団員は教職員三人と学生十九人で、団長は江口一彦工学部長。一行は、東南大での日本語学科の授業参観や交流会を通して、友好を深めました。

「ものづくり」の原点でもある「からくり」をテーマにした愛工大主催の「国際からくりワークショップ」が八月一日から十日まで、八草キャンパス内の「みらい工房」を会場に開かれました。参加した学生らは、本学のほか本学の姉妹校や学術交流のある中国・東南大、米国のケンタッキー大とジョージタウンカレッジ、韓国海洋大の学生ら二十五人。学生らは本学客員教授玉屋庄兵衛さんらの指導で、「からくり人形」作りを楽しみました。

編集後記

中日ドラゴンズが優勝した年には、政変がある――と聞いたことがありません▼中日が初めて日本一になった五十三年前の昭和二十九年。その年、保守の自由党が分裂、新たに保守系政党を取り込んだ日本民主党が誕生▼結果、ワンマンと評された吉田茂が総辞職に追い込まれ、政界を激震▼しかし、翌年には社会党の統一を脅威と感じた自由党と日本民主党が合同、自由民主党を結成▼以来、同党が日本の政治をほぼリードしてきたことを考えると、昭和二十九年の政変は日本政治史での一大出来事といえます▼中日が日本一になるや、飛び出た自民・福田首相と民主・小沢代表の党首会談、そして自民、民主の連立政権構想▼まさに政変を予感させる動きで、冒頭の話は一度に真実味を帯びてきます▼教育界―特に大学には変革の嵐が巻き起こりつつあります▼この変革をどうとらえるか、重大な岐路に立たされています。(久)